



沖縄県医師会・浦添市医師会
会員の皆様、今後とも医師会
活動にご協力お願い致しま
す。まだまだ未熟もので御座
いますが、ご指導・ご鞭撻よ
ろしくお願い致します。



浦添市医師会 会長
仲間 清太郎 先生

Q1. 浦添市医師会会長ご就任おめでとうございます。仲間会長は、平成10年から14年間にわたり理事、副会長として浦添市医師会活動に携わってこられ、この度医師会長として就任されましたが、これまでを振り返っての感想と、今後の抱負をお聞かせください。

平成4年4月に、中部地区医師会から独立した形で浦添市医師会は発足しました。当時は35医療機関、会員数88名でしたが、現在ではA会員83名+B会員148名と大変な大所帯となっております。初代会長の平安常良先生、二代目の嶺井進先生、三代目の山内英樹先生には、大変なご苦労があったと思います。心から感謝申し上げます。

さて理事・副会長含めて、14年間会長を支えてきました。平成24年1月の臨時総会で、会長に指名されました。大変身の引き締まる思いで御座います。固辞しましたが、不肖、小生が会長とは。幸い4名の優秀な副会長と理事の先生方がいます。役割分担して、大先輩たちが築いてきた浦添市医師会を継続・更に発展させていく所存で御座います。ご存知のように浦添市には浦添市立病院が御座いません。8つの病院が役割分担・連携して一つの総合病院ー市立病院という形をとっており、起承完結型医療を

目指しています。また行政側とも、非常に友好的な関係があり、平成14年に立ち上げたMIセンター（メディカル・インフォメーションセンター）も軌道にのっています。市民への医師会情報や相談・苦情等含めて、医療機関と市民との間のバッファーになっているのではないのでしょうか。

医師会は4つの基本理念が御座います。①ホームドクター制、②施設間連携、③インフォームドコンセント、④情報公開。この基本理念を基に、地域に根ざした、市民のための医療を展開していきたいと思えます。我々医師会・医療機関はサービス業です。主役は市民・患者です。そのことを忘れず、今後の浦添市医師会活動を発展させていきたいと思います。

Q2. 地域社会における質の高い在宅医療を市民に提供することを目的に平成21年1月に結成されました浦添市在宅医療ネットワークについて、現状や今後の展望等についてお聞かせください。

浦添市医師会は平成21年1月に浦添市在宅医療ネットワークを立ち上げました。特に、かじまやクリニックの山里将進先生・名嘉村クリニックの大濱篤先生には、大変なご苦労をおかけしました。長崎のネットワークが見本にな

っていますが、3年経過し順調に展開されていると思います。在宅支援診療所が12施設あります。特化型でされているところと、混合型（外来診療+在宅）が御座います。特化型は100～150名の患者、混合型は30～50名程度が限界でしょうか。在宅総合管理料が点数は高いです。24時間対応ということになっていますが、訪問看護ステーションとリンクすれば対応は可能です。これから、訪問診療を始めようとしている先生方には是非話しておきたいのですが、24時間対応とはいえ、普段の訪問診療できちんと指示、処方することで、オンコールはかなり減ります。オンコールが多い患者はむしろ入院治療を検討された方が良いと思います。在宅医療を始めるドクターが増えれば、在宅での看取りも増えると思います。是非ネットワークに参加をお願いします。

さて、昨年6月から今年2月まで、地域見守りサービス実証事業を浦添市医師会が実施しました。30名の患者について、医師・訪問看護師・薬剤師、介護支援専門員との間で情報共有化と連携を行う事業でした。サーバーに30名の患者情報を入力しておきます。医師のほうからは、主治医意見書、訪問看護指示書、処方箋、訪問看護師はiPadを使用しての情報共有と日報の報告、薬剤師は訪問薬剤指導の報告等、貴重な実証事業でありました。更に今年は、今までの実証事業のツールを使って新しい実証事業を行う方向で動いています。

さて、在宅医療ネットワークでの問題点として、主治医・副主治医・訪看の関係よりは、歯科医師や薬剤師による訪問歯科診療・訪問薬剤指導をもっと連携して増やしていく必要があります。ケアマネジャー・介護職との連携も今後必要になってきます。iPad等を使っての連携が今後有効なツールとなっていくでしょう。

Q3. 浦添市医師会は、健康を保つためのコツを紹介した「アンチエイジング浦添モデル」の策定や、浦添市と連携して行っている「メディカル・インフォメーションセンター」事

業、「3kg減量市民大運動」等、地域住民の健康保持増進に力を入れておりますが、現状と今後の課題についてお聞かせください。

浦添市医師会では、ホームページ上で様々な情報を市民に提供していますが、「アンチエイジング浦添モデル」もその一つです。本会副会長の久田友一郎先生が、浦添総合病院健診センター長として健診、診療に携わってこられた経験をもとに、健康を維持し、かつ若々しい体をつくるために提唱したモデルです。ここには、メタボリック症候群を予防し、単なる長寿ではなく健やかな長寿を実現するノウハウが詰まっています。ぜひ浦添市医師会のホームページに掲載されている「アンチエイジング浦添モデル」をご覧くださいと思います。

「メディカル・インフォメーションセンター」は、平成14年4月に、浦添市と浦添市医師会が協同して実現した事業です。浦添市庁舎1階ロビーに設置されていますが、浦添市民に医療や健康、福祉に関する幅広い情報を提供するとともに、市民からの要望や苦情などをそれぞれの現場に伝える役目をも担っています。行政と医療、市民を結ぶ結節点として、その役割の重要性は一層増してきています。とても先駆的な事業であり、浦添市における行政と医師会の連携の象徴ともいえるべき事業なので、これからも一層強化していくべき事業と思っています。

「3kg減量市民大運動」も、浦添市と浦添市医師会の連携による運動で、浦添市医師会の先生方によって提唱され展開されました。3kgという具体的で実現可能な目標を設定し、市民自らが自律的に健康をコントロールし、行政や医療（医師）がそれを支援していくという「自立支援型モデル」です。現在も「健康チャレンジ手帳」や「グラフ化体重日記」が市民に活用されています。

これからも、市民の健康保持、増進に積極的な役割と責任を果たしていきたいと思っています。

Q4. 県医師会に対するご要望がございました

からお聞かせください。

県医師会には特別な要望等は御座いません。現執行部で更に医師会を発展させていきたいと思います。

今後は、在宅での看取りも増えてくると思います。診療報酬も在宅での点数を高くしています。終末期医療の患者は自宅か施設での看取りへ持っていく方向で、家族へも説明し病院死を減らす方向で考えたほうが良いと思います。そういう意味でも、医師会も在宅医療にもっと力を入れていきたいと思います。

Q5. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

趣味はゴルフです。腱鞘炎で回数は減って

ますが、週に2回程ゴルフレンジへ通っています。日曜日・祭日はゴルフ場ですが、できるだけカートに乗らずに歩くようにしています。これが、健康法でもあります。特にジムに通うとか、ウォーキングはしていません。

座右の銘：一言で言えば、“努力”です。こつこつ努力が大きな結果となる。1年前から英語の雑誌に凝っています。NEJM（週刊誌）を注文して、特にCase Reportを読んでいます。大きな声を出して自分の部屋で読んでいます。結構英語の勉強になります。

この度は、インタビューへご回答頂き、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 池村 剛

